

単元名 屏風、美のしかけ(鑑賞)

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。
 (2) 日本の文化遺産である屏風などから、よさや美しさを感じ取り、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

10270301_001

【準備等】 参考資料、ワークシート、視聴覚機器、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 美のしかけを知り、作者の意図をくみ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 屏風の役割と名称の確認をする。また、屏風と衝立の違いも確認する。 ○ 俵屋宗達「風神雷神図屏風」と尾形光琳の「燕子花図屏風」を鑑賞し共通点を探る。 ○ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」のどちらが風神でどちらが雷神なのかを確認する。 <p>★ 折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」では、折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのかを話し合う。 ○ 俵屋宗達が風神と雷神を画面の隅に描いた理由を考える。 ○ 尾形光琳は「燕子花図屏風」にどんな工夫をしかけたのかを探る。 ○ 尾形光琳の「燕子花図屏風」では、折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるのかを話し合う。 ○ 学習を振り返り、画面に描かれているものやそのポーズ、構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などに作者の意図が隠されていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に掲載されている二つの屏風名と屏風独自の名称を確認させる。 ・ 7世紀に朝鮮半島から入ってきた屏風の役割を確認させる。 【評】 屏風の表現のよさや見え方の変化などに関心を持ち、意欲的に鑑賞に取り組む活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 琳派の二人の代表作を鑑賞させて、共通点を探らせる。 ・ 見たものをそのまま描いたのではなく、デザイン性があることに気付かせる。 ・ 俵屋宗達の「風神雷神図屏風」を鑑賞し、気が付いたことを発表させる。 【評】 屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 「造形的な視点」を確認させる。 ・ 風神と雷神が画面の隅に配置されている理由を考えさせる。この時、教科書を折り曲げたり、パソコン上などで風神と雷神の場所を変えたりしながら、その理由を考えさせる。 ・ 燕子花図屏風に同じ燕子花の絵が描かれていることに気付かない場合は型紙によって同じ燕子花が描かれていることを生徒に伝え、その場所を探させる。 【評】 屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの作者の意図と工夫、美術文化について考え、鑑賞する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 「造形的な視点」を確認させる。 ・ 琳派の二人が、見たものをそのまま描くのではなく、デザイン性を重んじて構図や余白、折りによる空間や奥行き表現を工夫していたことを再確認させる。 【評】 構図、余白、折りによる空間や奥行き表現などに着目し、その効果をとらえる活動を通して「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

7世紀頃に朝鮮半島から伝えられた屏風には、部屋の仕切りや風よけの役割とともに、美しい絵が描かれ、美術品としても愛されてきた。折り曲げて飾られる屏風は、折ることで立体感が生まれ、さらに正面からだけでなく左右に視点を変えることで絵に変化が生まれ、鑑賞者が楽しめるように工夫されている。また、琳派の起源ともなった俵屋宗達や尾形光琳の屏風の特徴はその大胆なデザイン性にある。本単元では、俵屋宗達の風神雷神図の大胆な配置や尾形光琳の燕子花図屏風の型紙を利用した構成など作者が屏風にしかけた工夫を仲間とともに読み解き、作者のねらいに迫る楽しさを感じ取れるよう指導したい。